

(別紙6)

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0792710014		
法人名	株式会社 コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホーム かねやま		
所在地	福島県大沼郡金山町中川沖根原1223-1 (電話) 0241-53-1550		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成20年1月28日

## 【情報提供票より】(19年10月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人,	常勤換算8.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	Ⓜ	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	1 名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 80.5 歳	最低 59 歳	最高 87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	金山町国保診療所
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、自然環境に恵まれ町の体育館や特別養護老人ホーム等の福祉施設と隣接した場所に設置されている。事業所には広い畑等があり四季を通して作物を育てている。利用者中心に日々の生活がゆっくりと家庭的な雰囲気の中で日々の生活を送っている。ホーム主催の夏祭りには多数の地域住民が参加し、地域を大切に、積極的に地域住民と交流し、馴染みの関係作りを行っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と主任で、サービス評価の準備をすすめ、ある程度まとめた結果を全職員に配り、サービス評価の意義や目的を話し、全員で自己評価に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 設置規定に基づいて開催している。町の保健福祉課で推薦した委員の他にホームで推薦した地域住民代表、利用者、利用者家族を検討中であるが、地域住民の参加が難しい状況である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族への定期的なお便りや面会時に声をかけ、少しの事でも気軽に話せるような関係作りを日頃より努めている。家族から出された意見は、管理者や職員で検討し、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の催し物に参加したり、町内会にも参加している。ホーム主催で夏祭りを実施し、多数の地域住民が参加するなど地域との関わりを大切に、積極的に地域住民と交流する取り組みをしている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	常に利用者の立場になって「私達は真心をこめてお一人お一人が自分らしい生活を送れるよう支援させていただきます」を全職員で作り上げたが、地域密着サービスの理念になっていない。		これまでの理念を見直し、地域密着型サービスとして何が大切か、全職員で話し合っ て作りあげて欲しい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り、定期会議などで、理念を念頭に置いた話し合いを行い、具体的なケアについて意見の統一を図り、日々の実践に向け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催しものに参加したり、町内会にも参加している。ホーム主催で夏祭りを実施し、多数の地域住民が参加するなど地域との関わりを大切にし、積極的に地域住民と交流する取り組みをしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての為、管理者と主任でサービス評価の準備をすすめ、ある程度まとめた結果を全職員に配り、サービス評価の意義や目的を話し合い全員で自己評価に取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>設置基準に基づいて開催しているが、保健福祉課で推薦した委員の他にホームで推薦した地域住民代表、利用者、利用者家族等を検討中であるが地域からは難しい状況である。</p>		<p>今後は運営推進会議に事業所推薦の地域住民代表や利用者、利用者家族等に参加いただき、率直な意見や要望を出していただきサービス向上につなげてほしい。</p>
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りと一緒に職員の異動、金銭出納の報告、行事予定表、さらには個々の入居者の生活の様子等の写真を個々の利用者に合わせて定期的に送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ちょっとした事でも気軽に意見を言えるような関係を日頃より築いている。家族から出された意見は管理者、職員で検討し、解決策を講じてサービスに反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>顔馴染みの職員によるケアに努めており基本的には異動は行っていない。やむを得ず異動になった場合は、管理者から利用者に説明したり、毎月発行のホーム便りにて、家族には知らせている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については経験のある人、浅い人等、段階に応じて受講している。参加した人は職員会議で報告している。研修は勤務扱いとし、できるだけ研修に参加しやすくしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、できる限り他の事業所との交流を図っている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る部分をできるだけ本人に行ってもらい、本人のできない部分を支援している。また、職員は利用者を人生の先輩として敬い、郷土料理や言葉等を教えてもらったり励ましてもらう場面があり、共に支えあう関係を築き、笑いや喜びを共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者がどのような生活をしたいのかを把握するため、日々の関わりの中から言葉の意味や表情、行動等を確かめて、その人に合わせた対応をしている。</p>		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の意向や家族の希望を取り入れ利用者の様子や気づきを把握し介護計画に反映して作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。また、状態変化時は家族等と話し合い、介護計画の変更を行っている。変更内容についても介護計画に記入されている。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどは、入居以前からのかかりつけ医に継続して受診している。かかりつけ医からはいつでも相談や助言をいただける関係を築いている。受診する場合は職員が支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に救急時や終末期について家族の意向を確認し、施設としての限界についても説明をし、同意を頂く方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁する利用者や着衣が行えない利用者に対しては、他の利用者の目に触れないようにするとともに羞恥心に配慮している。また、適切な言葉で対応することを心掛けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に合わせて買い物や散歩等、一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付けは職員と一緒にいき、同じテーブルで一緒に食事を取っている。職員は利用者一人ひとりが食事が楽しみになるように取り組んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事業所での入浴以外にも利用者の希望により町内の温泉施設へ出かけて入浴している。事業所では職員体制が充実している為、夜間入浴も希望があれば可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	洗濯物たたみ、食器拭き等、日々の生活の中でその人にできる事が自然に役割や楽しみごとになるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	ホーム周辺を散歩したり、町内外にドライブに行ったりしている。また、利用者の昔からの友人や知人を訪問したりするなどして、外出の機会を積極的に支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は一切掛けていない。安全面に配慮しながらできるだけ自由な生活ができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の避難訓練を実施している。消防署の防災安全指導も受けているが、地域の人々の協力を得るような働きかけが不足している。		隣接には特別養護老人ホームがあるので、お互いに協力関係を築いたり、運営推進会議を活用して地域の人々との協力関係を築いてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況等を記録するとともに、利用者の状態に合わせて、栄養バランスや利用者の嗜好等に配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはイベント時に撮った写真や花を飾っており、季節が分かるよう工夫し、居心地のよい共有空間づくりを行っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	編み物道具等を持ち込んでいる利用者がいたり、畳が必要な利用者には畳の部屋を準備するなど居心地良く過ごせるよう工夫している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	グループホーム かねやま
記入担当者名	佐藤 澄江

評価結果に対する事業所の意見
特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。